

幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

アンコールワット

発行日:2018年(平成30年)11月1日 《年6回・奇数月発行》 会報 第103号

特定非営利活動法人(NPO法人)

21世紀のカンボジアを支援する会

(AAC21) ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL:03-3991-2854 FAX:03-3557-1213
E-mail:info@aac21.net

【カンボジア事務所】Phon Preytea, Sangkat Chaom Chao, Khan Por Senchy
Khan Por Senchy, (Borey Newtown) Phnom Penh
(855) 78-784-808 (855) 17-599-707

【ホームページ】 AAC21 検索

【公式ブログ】 メコンの風に吹かれて 検索

村民の熱意が伝わり小学校に新校舎完成

石川桂さん(本会理事・相談役、愛知県安城市在住)の資金協力により建設中だった「ジーポア小学校」(コンポンチャム県スレイソントー郡、生徒数1150人)の新校舎がこの程完成、9月16日、カンボジア王国政府主催の贈呈式が校庭で行われた。

式には、校舎を寄贈した石川相談役を始めとする愛知県安城市在住の4名、「在カンボジア王国日本大使館」から松本二等書記官、「カンボジア王国政府」からシアン・ブンレン内務省副長官ら多数の要人、地元から多くの村民や生徒たち、約500人が出席した。本会からは根岸理事長が出席して挨拶を述べた。

同校は、2年前より村民の皆さんがお金を出し合い新校舎建設が進められていたが、資金難により基礎工事の段階で工事が中断していた。

そのことを知った石川さんは村民の皆さんの熱意に心打たれ、残りの建設工事資金を石川さんが支払うことで合意し、この程完成にこぎつけた。

新校舎は4教室でレンガ造りの平屋建て。11月の新学期から本格的に利用が開始される。

新校舎は4教室でレンガ造りの平屋建て。11月の新学期から本格的に利用が開始される。



あいさつする石川桂さん



4教室の立派な校舎

在カンボジア日本国大使館より昼食のご招待

9月16日、「ジーポア小学校」に新校舎を寄贈したことで、堀之内在カンボジア日本国大使が大使公邸に関係者5名をご招待、昼食会を催してくれた。

招待されたのは、校舎を寄贈した石川桂さんを始めとする愛知県安城市在住の皆さん(4名)。本会の根岸理事長も招待された。

大使の赴任先が安城市と姉妹都市だったことや、石川さんが趣味でしている篆刻にまで話がおよび、有意義な2時間だった。



昼食会終了後大使公邸にて

自然災害との戦いは果てしなく

NPO法人21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸恒次

今年の夏は、集中豪雨、熱波、台風、地震が次々と日本列島を襲い、甚大な被害を被った。地球温暖化がもたらした、世界的な異常気象の一端なのかもしれないが、被害が年々拡大しているように思える。

私の浅い知識によれば、日本人の祖先は元々災害の少ない中国大陸にいたが、戦いに敗れて極東の日本列島に逃げ込んだそう。

しかし先人たちは、自然災害と戦

い対策を講じてきたが、自然の猛威は容赦なく、毎年のように列島を狙い打ちしている。

北海道地震の余震が続く中、急ぎカンボジアに渡り活動してきた。カンボジアは長い間戦乱に明け暮れたが、自然災害といえば、時々発生するメコン川の氾濫による洪水被害が甚しい。

地震なし、台風なし、集中豪雨なし、熱波も何とか耐えられそう。

それでもひどい年は、洪水被害で数十人が命を落とし、数万単位の家が流されるそう。どこの国も自然災害と戦っているのだ。

時々発生する洪水にも住民は慣れたもので、高床式住居にポートと、用意周到である。

里子訪問していると、案内役の校長先生が「今度行く場所は道路が冠水してポートで行きますが、どうしますか?」と言われた。又とない機会なので、ポートに乗って里子の家を訪問した。

里子の家族は私たちを待っていて、歓待してくれた。教育支援活動を始めて15年、ポートでの里子訪問は初体験だった。



冠水した道路上をボートに乗って

カンボジアの子どもたちをサポートしてください

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

例えば73年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。



里親さん、ありがとう

【教育里親会費】 子ども1人につき 1年間3万円。

- ・内訳
子どもへ直接支援する額=12,600円(42%)
年会費(会の運営に回す額)=17,400円(58%)
- ・子どもへの直接支援額を高めるよう努力しております。
- ・一括納入、分割納入(毎月、年3回、年2回)のどちらでも可。所定の郵便振替用紙を使いお振込みください。

【支援する期間】 少なくとも子どもが学校を卒業するまでの間、支援して頂けたら幸いです。やむを得ず子どもが中退する場合もありますが、その際は別な子どもの支援をお願い申し上げます。

【子どもとの交流】 子どもからは概ね6ヶ月に1度、近況を報告する手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。
・里親から手紙、プレゼントを届けることができます。(子どもから写真とお礼の手紙が届きます)
・年3回実施の「里子訪問の旅」に参加し、里子に会うこともできます。

夢ホームから 社会へ巣立つ

2009年に開園した当初から夢ホームで暮らしていたスレイコーンちゃん(20歳)がこの程高校卒業試験に合格、めでたく夢ホームを卒業した。

スレイコーンちゃんは両親を亡くし、小学校3年生のとき夢ホームへ入園した。以後中学、高校と近隣の学校を卒業、現在はプノンペン市内の現地事務所に身を寄せていて、雑務を手伝っている。

将来は英語を勉強したいということで、来年以降、専門学校か大学への入学を目指している。



高校を卒業したスレイコーンちゃん

児童養護施設 夢ホーム日記

カンボジアのコンボンスプー県にある児童養護施設「夢ホーム」は、両親や片親を亡くしたり、親がいても不遇な家庭環境にある子どもたちの教育と生活の場として、会員の皆様のご厚意により2009年3月に開園しました。

現在11歳~18歳の男女11人が暮らし、近隣の小・中・高校に通学しております。

■長いお休みに入り帰省しました

9月から10月末日まで、カンボジアの小・中・高校は長い休みに入った。

この間にお盆もあるため、子どもたちは9月21日から約1ヶ月間、生まれ故郷に帰省した。

親のいない子ども、親戚のいる故郷が恋しいようだ。



村西様より折り紙と教本を頂きました

カンボジアの小学校に1つの井戸が完成

9月11日、根岸理事長が出席して「アンクナー小学校」(コンボンスプー県)で井戸の贈呈式を行った。カンボジアは長いお休みに入ったが、式に参加するため、生徒たちが登校してくれた。

井戸は、「北海道札幌手稲高校家庭クラブ」の皆さんが寄贈してくれた。

きれいな水が豊富に出て、生徒たちはこぞって水を求めていた。

札幌手稲高校家庭クラブ様寄贈の井戸



9月に完成した井戸の内訳

寄贈者名	学校名	生徒数	所在地(県名)
1 北海道札幌手稲高等学校家庭クラブ	アンクナー小学校	419人	コンボンスプー県

※過算の井戸設置数(2003年~):327基(9月現在)



里子を訪問した里親の竹内さん

9月15日、18日、「国際ソロプチミスト安城」(愛知県安城市、大橋緑会長)より、会長以下2名がカンボジアを訪問した。
16日は、同郷の石川桂さんが寄贈した「ジーボア小学校」の贈呈式に出席、17日には、在カンボジア日本国大使の招きで、大使公邸で催された昼食会に出席した。合間をみて、プノンペン市内観光を楽しんだ。
18日には、「夢ホーム」と、個人的に教育支援する里子の家を訪問、初めて里子と対面した。
その後、「国際ソロプチミスト安城」が資金提供して7月に完成した小学校の井戸を視察、その夜のAN A直行便で帰国した。

「国際ソロプチミスト安城」がカンボジア訪問

9月19日、21日、「アジアのデザインアート」の展示会と「クメール美術」に関するシンポジウムが、プノンペン市内の「カンボジア日本人材開発センター(CJCC) 絆ホール」で開催された。
夢ホームの子どもたちも招待され、デモンストレーションなどに参加した。



夢ホームからも参加しました

アジアのデザインアート展など開催



飴をありがとう

9月12日、14日、根岸理事長が里子訪問、夢ホームを訪問する中で、日本から持参した会員様からの寄贈品を子どもたちに配り、喜ばれた。
※届けた品物と寄贈者名は次の通り。
・飴ほか雑貨(岩橋様)
・ぬいぐるみ(加藤様)
・学用品など(竹尾様)
・学用品(宮崎様)
・夢ホームへ折紙と教本(村西様)

日本からの寄贈品を届けました



夢ホームを訪問しました

國學院大學国際協カサークル「優志」が活動

8月28日、9月16日、國學院大學国際協カサークル「優志」の皆さんがカンボジアを訪問、村での衛生指導活動を中心に様々な取り組みを行った。
9月9日には、「夢ホーム」を訪問、子どもたちと交流した。その後里子の家を訪問した。その12日以降はシエムリアップへ移動し、アンコールワット観光などを楽しんだ。



参加者全員で

「ドリームチャレンジカップ」に2チーム出場

日本の学生団体「MOREN」(大江航平代表)が9月4日、カンボジアの首都プノンペンにある「オリンピックスタジアム」で第3回「ドリームチャレンジカップ」(サッカーの大会)を開催した。
本会が関係する小学校からは、昨年の第2回大会は1チームが参加したが、今年大会には2チームが参加、良い成績を修めた。
同会は9月10日、本会がよく訪問するトンレサップ湖の水上生活村にある「メイチュレイ小学校」で、カンボジア代表とマレーシア代表の試合をパブリックビューイングで放映、多くの子どもたちがそれを見て歓喜していた。
試合は1対3でカンボジア代表が敗北したが、日本の本田圭佑氏がカンボジア代表の事実上の監督に就任して初陣だったことから、日本でも注目を集めた試合だった。

書き損じハガキ・未使用切手・商品券等をお送りくださいませ

本会では、書き損じハガキ・未使用の切手・ビールやデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。普通郵便で事務局へお送りください。



農村の売店で売っているのを見かけました。子どもたちのおやつとして好評です。一体何を焼いて売っているのでしょうか?
(答えは4ページ下段の事務局便りにあります)

さて、何を売っているのでしょうか?

教育里子が通う

小学校紹介(2)

本会が教育支援する里子が通う小学校はカンボジア国内に27校、小学校を卒業した里子は、その周辺にある中・高校に通学している。里子が通う小学校を、順次紹介したい。

《ソムプール小学校》

- ◎所在地=コンポンスプー県チュバモン郡タメイ村
- ◎生徒数=314人(先生=14人)
- ◎校舎=4棟
- ◎歴史=1958年に創立した由緒ある小学校
- ◎授業形態=午前中のみ
- ◎里子の数=23人(9月末現在)
- ◎環境=比較的街に近いが、近くにスラム街もある



休み中で静かなソムプール小学校

里子への教育支援金を隔月に届けます

本会のカンボジア事務所では現地スタッフが、里子が通う小学校(現在27校)を隔月に訪問、里親から頂いた年会費(1人当たり3万円)の中から、42%に当たる12,600円を年6回に分け、米ドルにして里子にお届けしている。

中・高校に通う里子も、出身校の小学校に集まり、教育支援金を渡している。

9月は、下旬から10月上旬にかけて、8月と9月分を支給した。



教育支援金を配りました

里親からのプレゼントを届けました

クメール教育里親基金活動レポート

本会は、病気や事故、親の離婚などにより両親や片親を亡くしたり、親がいても貧しい環境にあるカンボジアの子どもたちが安心して学ぶことができるよう、2003年に「クメール教育里親基金」を設立、現在約390人の子どもたちを教育支援している。

9月12日、14日、根岸理事長と現地スタッフが里子の家を訪ね、日本から持参した里親からのプレゼントを届けたり、新規に教育支援を始めた里子の家庭状況を里親に知らせるための、リサーチ活動を行った。

また9月18日には、個人的にも教育里親になっていく「国際ソロプチミスト安城」の大橋緑さんと



竹内恵美子さんが里子の家を訪問、初対面を果たした。

「アジアンフェスティバル」(日立市)に3人参加

8月25日、残暑厳しい中、「ひたちとアジアの文化交流をすすめる会」主催の20周年記念イベント「アジアンフェスティバル」(日立シビックセンター)が行われた。

同会の会長(小澤紀夫さん)と副会長(菊池和雄さん)が本会の会員であり、特に毎年カンボジアでサッカー大会を共催していることから、イベントに根岸理事長始め3人の会員が参加した。ステージでは、アジア各国の踊りや音楽、ファッションショーが行われ、会場では写真展、お茶席コーナー、民族衣装試着コーナーなど多彩な催しがあった。



会場で参加した皆さんと

縫製工場の朝

カンボジアの基幹産業、縫製工場の朝はとて元気だ。月給は200ドル前後(2万1千円)と高給とはいかないが、物価が安いカンボジアでは何とか食べていける。

だが、先日行われたカンボジア総選挙で、野党を潰した与党が圧勝したことにより欧米諸国が反発、衣料品の輸出に高い関税をかけるなど経済制裁の恐れが生じた。経営不振で社長が自殺したり倒産した工場もあり、国の対応が問われている。

すし詰めトラックの荷台に乗り出勤



働く前に腹ごしらえ



中にはトクトックで通う従業員も



お寺に寄付することも大事な日課



写真展「カンボジアの子どもたち」開催

8月17日、22日、東京都調布市、調布市文化会館たづくり(みんなの広場)におき、写真展「カンボジアの子どもたち」を開催した。毎年8月に開催しており、今年で6回目の開催。

猛暑の中、沢山の調布市民の皆さんが、写真を観てくださった。写真展会場の様子



写真展会場の様子

ウオッチ

子どもが田植え

車で走行していると、子どもたちが田植えをしている。最近ではカンボジアの田植えも機械化しており、ましてや子どもが田植えをしている光景は久しく見えない。NGOが運営する学校の子どものようにだ。



田植え

カンボジア初の日本書店

6月にオープンしたプノンペン市内の「イオンモール2号店」に、日本の書店(紀伊国屋書店)が開店した。日本の書籍コーナーもあり、多分カンボジアでは初のこと。統計では、カンボジアの在留邦人は昨年10月の時点で3,518人、益々増加する日本人にとって嬉しいニュースだ。



日本書店

日本食店舗が急増中

在留邦人の増加に伴い、日本食店舗も急増している。その種類も、寿司屋、焼き鳥屋、うどん屋、居酒屋と様々。先日入ったうどん店(MARUGAME)は値段も安く、掻き揚げなどのトッピングも充実していて、美味しかった。



日本食店舗

家族の写真

たまたま立ち寄ったレストランに、家族の写真が飾られていた。日本ではまずお目にかかれないことだが、文化の違いだろうか。いずれにせよ、家族の絆を大事にしていることは確かだ。



家族写真

日本向けの介護大学がオープン

高齢社会になった日本は、団塊世代が後期高齢者になる5年後には介護人材が大幅に不足することが危惧される。そんな中、仏教国で穏やかな性格のカンボジア人を日本の老人ホームなどで働いてもらおうと、プノンペン市内に介護大学が誕生した。介護人材不足の救世主となるか、期待がかかる。



介護大学

鎌倉の大仏様を想起

地方のお寺を通ると、屋外に大仏様が飾られていた。鎌倉の大仏様のような。地方の家はお世辞にも立派とはいえないが、寺院だけはお金をかけて立派に造る。信仰心深いカンボジア人ならではの。



大仏様

地方のお寺を通ると、屋外に大仏様が飾られていた。鎌倉の大仏様のような。

クメール教育里親会員になりませんか

カンボジア王国認定団体：活動歴 19年
カンボジアの子どもたちを助けてください



里子の家を訪問して家族と交流します



里子と里親さんとの再会・言葉はいらない



教育と貧困の連鎖が起きている



4・5年生になると働きに出てしまう

1年間3万円で子どもが学校に行くことができます
どなたか1人里親を紹介ください。下記に連絡を！

東京本部 〒176-0011 東京都練馬区豊玉上 2-25-7-203 ☎03-3991-2854

会員懇親会(忘年会)を開催します

会員相互の親交を深めるため、懇親会(忘年会)を開催します。参加をご希望の方は、事務局へお申し込みください。

【日時】12月8日(土) 正午から2時半まで
【会場】レストラン「サンアロハ」(横浜山下公園近く)
【会費】4,500円

※会費は当日会場にてお支払いください。
(但し6日以降のキャンセルは全額ご負担願います)
※会場へのアクセスについては、事務局へお尋ねください。

☎03-3991-2854

本会の会員状況をお知らせいたします

(2018年9月末日現在)

- 教育里親会員 313名
- 個人会員 105名
- 団体会員 6団体
- 合計 424名(団体)

事務局便り

■第40回「夢ホーム・里子訪問の旅」(11月8日～14日)は会員16人が参加し、予定通り催行されます。旅の安全をご祈念ください。

■ブログとともに、フェイスブックを再開しました。どうぞご覧ください。(但し、根岸理事長のフェイスブックになります。)また、会報のバックナンバーもホームページで見ることができます。

■里子へのプレゼント「一覧表もホームページに掲載しましたので、活用してください。

■2面、クイズの回答は「バナナ」でした。

■1串500リル(15円程度)で売っています。

11月～12月の予定

- 会報「アンコールワット」11月1日付第103号発行
- 第40回「夢ホーム・里子訪問の旅」(11月8日～14日)
- 会員懇親会(忘年会)(12月8日、横浜・レストラン「サンアロハ」)

投稿

開通した空港線に試乗してみました(2) =転換期を迎えたカンボジア=

プノンペン・ロイヤル駅は、もともと1932年に建設された由緒ある駅で、内戦で破壊されそのままになっていましたが、2010年に改修後、貨物用として再開業されました。

駅構内は広いのですが閑散としていて、駅員は何もすることがなく、のんびり過ごしている感じでした。

40分程駅周辺を散策してから駅に戻ると、まもなく貨物用とみられるカーキ色のジーゼル機関車に引かれた一両の客車がホームに到着、中から7～8人程の乗客が降りてきました。

10分程待たされて客車に入ると、中は通勤電車のような長座席が、そして5台の家庭用とみられるエアコンが上部に備え付けられていました。乗



スラム街の中を電車が通る

客は私以外に現地の人6人だけでした。

ホームにはジーゼル機関車が先頭に入ってきましたが、何と今度はジーゼル機関車が客車を押す形のまま、警笛を鳴らしながら自転車ほどのスピードでゆっくりと進んで行きました。

線路の敷地内に居を構える人たちがいて、人だけでなく犬や鶏がいきなり目の前で線路を横断したりする姿を見ていると、ハラハラしてしまいます。

居住区間を抜けると、線路を横切る幹線道路に踏み切りがあり、係員がロープを引いておろすのですが、列車が50メートル近くになってからおろし始めるので、スリル満点でした。(佐々木英介、東京都在住・里親会員)

=次号に続く=

活動に参加しませんか

正会員として

●教育里親会員(年額3万円)
子どもたちへ直接払う年額
1万2千6百円(42%)

●会の運営に回す年額
1万7千4百円(58%)

●個人会員(年額5千円)
●団体会員(年額1万円)

寄付金

当会の活動に賛同いただける方からの寄付金も受付しております。

●会費・寄付金の送付は、銀行振込、郵便振替、現金書留で。

【口座名】21世紀のカンボジアを支援する会

【ゆうちょ銀行】019支店 当座 0160916

【りそな銀行】練馬支店 普通 4098235

●ゆうちょ銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご連絡ください。

●会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。

春さんのカンボジアレポート

～カンボジアの総選挙結果～

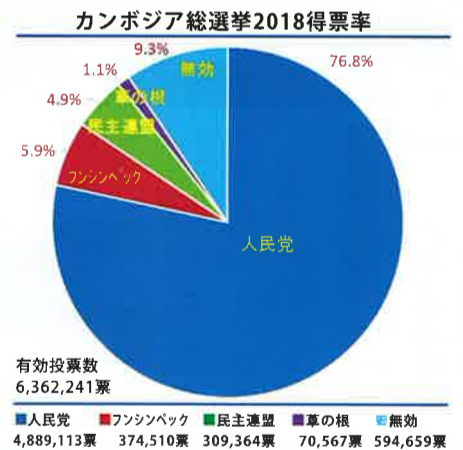
第6回国議会議選挙の結果は予想通りというより、予定通り与党のカンボジア人民党の圧勝。なので、新聞の報道もベタ記事扱いで、人々の話題にも上がりません。与党が全125議席を占めるという稀有な一党議会が生まれてしまいました。

登録有権者数は838万217人で投票者数は695万6900人。与党人民党の得票数は488万9113票。野党では、フンシンパック党37万4510票、民主連盟党30万9364票、期待された草の根民主党は7万567票と健闘しましたが、議席獲得には至りませんでした。

無効票は59万4659票と全体の8.5%。前回2013年の2%以下から大幅増加です。この無効票は、フン・セン首相の強権政治への反発です。

解散させられた野党指導者の国外からの選挙ボイコット呼びかけで、投票率の低下を恐れた人民党は有権者に投票するよう圧力をかけ、投票率は前回の69.6%を大きく上回って83%。フン・セン首相としては上出来でしょう。

鈴木春男(カンボジア・シムリアップ在住、里親会員)



【図書紹介】カンボジア孤児院ビジネス

《評》東南アジア最貧国ともいわれたカンボジアも内戦が終結して25年が経過、経済も順調に成長している。私が最初にカンボジアを訪れた23年前は、遺跡アンコールワットにも沢山の戦争孤児がいて、観光客に物乞いしていたものだが、最近はほとんど見かけなくなった。カンボジアには、全く身寄りのない孤児はほとんどいなくなったと思っていたが、カンボジア社会福祉省とユニセフの報告によると、カンボジア国内において孤児が減っているにもかかわらず、孤児院などの施設が増えているという。その背景には、子どもの尊厳を無視した孤児院ツアービジネスがあると、本書は指摘している。孤児が減っているのに孤児院が増えている矛盾を突く本書を是非お読み頂き、子どもたちの人権が守られるよう、活動して行きたい。(根岸記)



岩下明日香著(潮出版社刊) 定価:本体1,400円